

# 『時事直言』 No.1694 2024年9月17日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] [info@chokugen.com](mailto:info@chokugen.com)

[X(旧 twitter)] [t\\_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/

[instagram] [t\\_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)



時事評論家 増田俊男

## 沈没寸前！不沈艦アメリカ

1944年の戦後の国際金融体制を決めるブレトンウッズ国際会議で1オンス35ドルの交換制に基づくドル国際基軸制が決まってから1971年8月15日ニクソン大統領がドルと金の交換制を廃止するまで金本位制が続いた。

金の裏付けを失ったドルが基軸通貨としての特権を維持する為、1974年キッシンジャーはサウジアラビアと他の中東産油国の安全保障と引き換えに中東原油の取引通貨をドル独占にする(ペトロダラー)合意を得た。

ドル・金交換制の金本位制時代、アメリカは世界最大の対外債権国であると同時に財政、国際収支黒字国であった。

現在のアメリカは世界最大の債務国であると同時に財政、国際収支恒常的赤字国である。

ペトロダラーの支えと金融市場におけるマニピュレーション(市場操作)が無ければドル基軸の特権は維持出来ない。

為替市場におけるドル価は名目価値であって購買力による正価ではない。

通貨の真価は購買力であって通貨間の比較価値ではないのである。

従って為替市場におけるドル価も、又株式市場における株価も名目価値であって真価ではない。

しかし国際、国内経済は名目通貨、名目株価、名目商品価格をベースに活動しているから名目(フェイク)が真価扱いになっている

ドルで表示される金価格は金1オンスを買うのに何ドル払わなくてはならないか、すなわちドルの金に対する購買力を表している。

現在の金価格は1オンス2,600ドルである。

1971年8月15日金1オンス35ドルであった金価格が53年後の今日74倍になっていると言うことはドルの購買力が74分の一に下がったことを意味する。

ドルの購買力は落ち続け、金価格のみならずモノやサービスの価格も上がり続ける、すなわちドル減価によるインフレが続いているのである。

FRBはインフレ退治の名の下に利上げと言う市場操作によって收拾しようとしている。

正しいインフレ対策は、利上げと言うギミックではなく「物価はモノとサービスの需給のバランス」と言う原則に基づく対策を打つべきなのである。

製造業優遇インセンティブや関税撤廃などで輸入増をはかり、旺盛な需要に対して供給増大化政策で需給バランスを保つべきなのである。

偽の名目データに惑わされて偽の金融政策に明け暮れているのがFRB、ECB、日銀等の中央銀行である。

フェイク仕立てのアメリカ経済と他の主要国経済は何時まで持続可能なのか。

ドルが崩壊する事態は何時起きるのか。

明日からの我々のビジネスにも致命的な影響を与えかねない事態が迫っている。

小冊子 Vol.143 は必読です。

### 大好評配信中！増田俊男の「インターネット目からウロコの増田塾」

#### いつでも繰り返し何度でも視聴可能！

皆様からのご要望にお答えし、「株式指南」を継続的に配信するコンテンツをスタートします。是非、この機会にお申し込みください。

【配信予定内容】○損をさせない「早朝株式指南」○本日の世界政治・経済情勢の裏(真実)

★いつでも繰り返し何度でも視聴可能。ご視聴方法：PC・スマートフォン・タブレット ※Youtubeの視聴環境が必要となります。詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX：03-3956-1313、HP：<http://chokugen.com/>) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX：03-3956-1313) までお知らせ下さい。